

コース名 「個人の発達の系」概論コース	2018年度回数 全10日12コマ	担当者 中村隆一
------------------------	----------------------	-------------

授業の内容

【発達理解と歴史理解を得る】

人間の発達を考える際の基本点は、発達の「これまで」を未来につなぐことにあり、その結節点が、発達の「今」である、ということになります。そして、「今」の姿の背景には、さまざまな歴史があり、この「個人の発達の系」概論コースでは、まず「個人の発達の系」に、さまざまな歴史のひかりもあてながら、発達について立体的に考えてみたいと思います。

その一つは、生命が出現し人類の祖先が登場してきた進化という歴史です。また、人間が「発達」という現象に気づき、それを研究の対象にしてきたという人類の歴史にもふれます。あわせて、心理学の優生学・優生政策への関与の歴史やその過ちの克服の努力の歴史についても発達研究の歴史という形でふれます。

【発達のすじ道を知る】

人間の発達を支える体系としての発達保障論は、「ひとりの発達が万人の発達になるような」社会の実現とともに、ひとりひとりの発達を具体的に支える方法や技術を必要とします。そうした方法や技術の検討・再構成は、もっぱら支援者固有の専門性ですが、その場合に発達をとらえて内発的な根拠が把握されていることは、重要な意味があります。「啐啄（そつたく）」ということばがあります。雛（ひな）が卵からかえる時、卵の中にいる雛がからを中からつつく（その音が啐）ことと、親鳥が殻を食い破る（啄）とが一致して、雛鳥が殻から出てくることができるといいます。卵の殻の中の様子をつかんで支援する、これが発達のすじ道を知ることの重要な中身になります。

具体的には、受精から9、10歳頃までの時期を述べようとしています。

【発達認識の理論的理解と勘所（かんどころ）を学ぶ】

同時に、支援者の日々の取り組みの中で、支援の方法や技術が深まるためには、その材料となるさまざまな記録がとても重要になります。その記録をつけるとは、行動や姿を「ことば」にすることですが、その「ことば」がゆたかになっていることが必要です。実際には、変化しようとしている姿であるのに、逆戻りの姿であったり静止した姿としか記録できないとすると、それは支援の方法や技術を検討する材料にはなりにくいのです（発達の理論的理解を得る）。

さらに、支援は、人間同士のかかわり・やりとりの中で進んでいきます。ところが、私たちは、話し言葉でのやりとりになれきっているために、話し言葉が無い状態の人たちとのやりとりに戸惑いを感じることにありますが、そうした戸惑いにもできるだけ適切な対案を示したいと思っています（発達の時期ごとのやりとりのツボを知る）。

以上3つの課題に迫ろうというのが、「個人の発達の系」概論コースです。

具体的計画

まず、冒頭の3～4回目までは、進化や人間の発達認識の深まりなど、歴史的な経過と発達研究における理論的なことがらを学びます。やや理屈っぽい内容ですが、可能な限りいろいろな教材をつかって、初心者の方にも興味を持っていただけるようにすすめます。

後半は、受精から胎生期、乳児期前半、乳児期後半、幼児期と10歳頃までの発達のすじ道をたどります。ここでは、発達の各時期の特徴、それを裏付ける具体的な知見、を軸に述べます。特に、他者との関係のありようややりとりについて時間をかけたいと思います。

すすめ方

教材は、当日に配布する資料、スライド、VTR などです。スライドのHandoutなどは、

人間発達研究所のホームページの発達保障学校のコーナーにリンクがありますので講義前にダウンロードしていただくことも可能です。

インフォメーション

《質問について》

講義形式のコースですが、質問大歓迎です。メールでのご質問は下記専用メールアドレスにどうぞ（携帯電話のメールはうまく送受信ができない場合がありますのでご注意ください）。

質問用のメールアドレス r-nakamura@j-ihd.com

《資料など》

講義では用意したスライドをもとに進めますがHandoutは印刷していません。このHand-outやレジュメ、講義の映像、音声はインターネットのサイトにアップロードしますのでご利用ください。

なお録画は、一旦ダウンロードをした上で再生が可能です。ご注意ください。

参考図書

田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断1～5』（大月書店）

中村隆一『発達の旅 人生最初の10年 旅支度編』（クリエイツかもがわ 2013）希望者は割引価格（定価1700円が1200円）で購入できます。